

有珠山

1 概況

火山活動に変化はなく静穏に経過しました。

2 地震活動の状況

地震回数は 1 日あたり 0~2 回で推移しました。震源はほとんどが山頂火口原直下の浅いところ(深さ 1km 前後)と推定されます。

月別地震回数(A点)

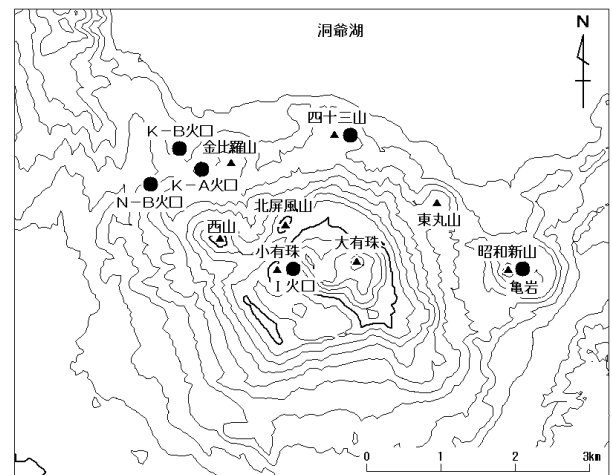
2002~2003年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
地震回数	26	17	19	21	18	24	22	29	21	28	17	21
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 噴煙活動の状況

西山西麓(N)火口群のN-B火口の噴煙は、概ね火口上 50m程度で推移しました。山頂火口原、昭和新山でも特別な変化はありませんでした。金比羅山(K)火口群の噴気は観測されませんでした。

4 上空からの観測結果

6月10日に北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、西山西麓のN-B火口・N-C火口、山頂火口原のI火口・小有珠南東麓・銀沼火口などから白色の噴気が上がっていました。金比羅山火口群のK-A火口・K-B火口は、ともに水溜まりで噴気や熱水湧出は認められませんでした。これらの状況に特段の変化はありません。

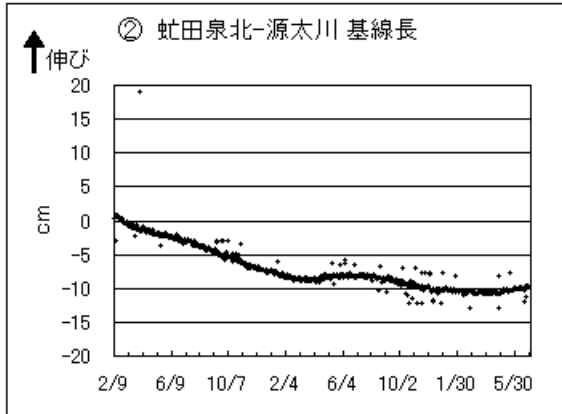
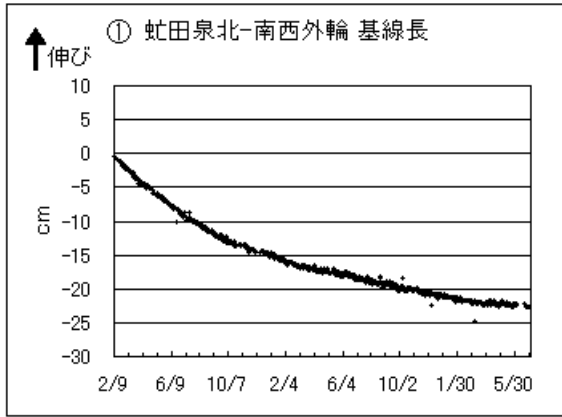


南側上空から見た N 火口群
(6月10日、北海道開発局のヘリコプターから撮影)

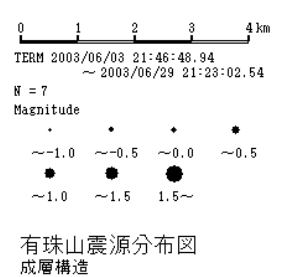
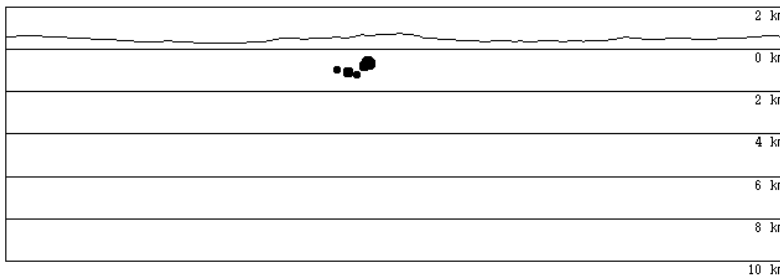
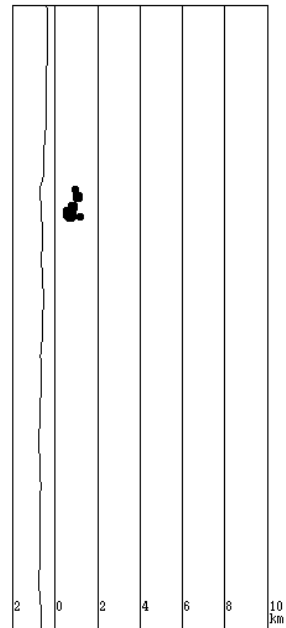
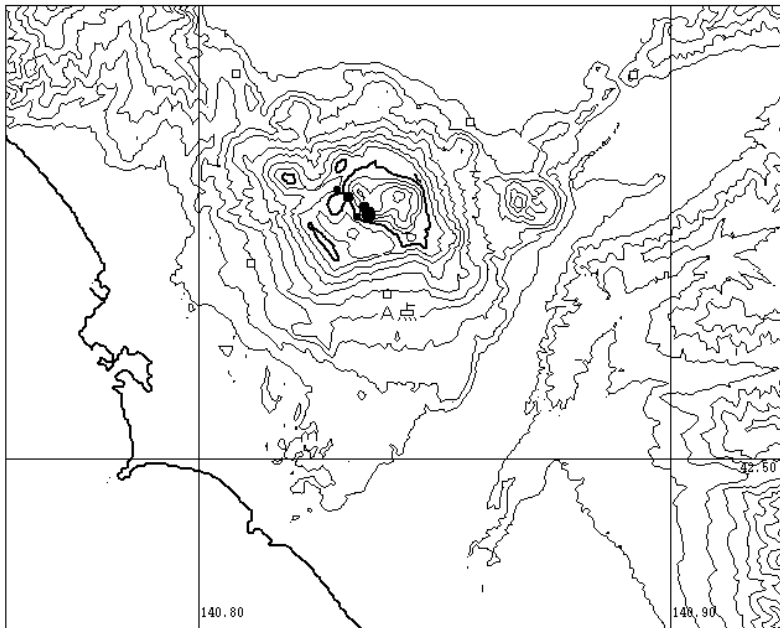
有珠山周辺図

5 地殻変動の状況

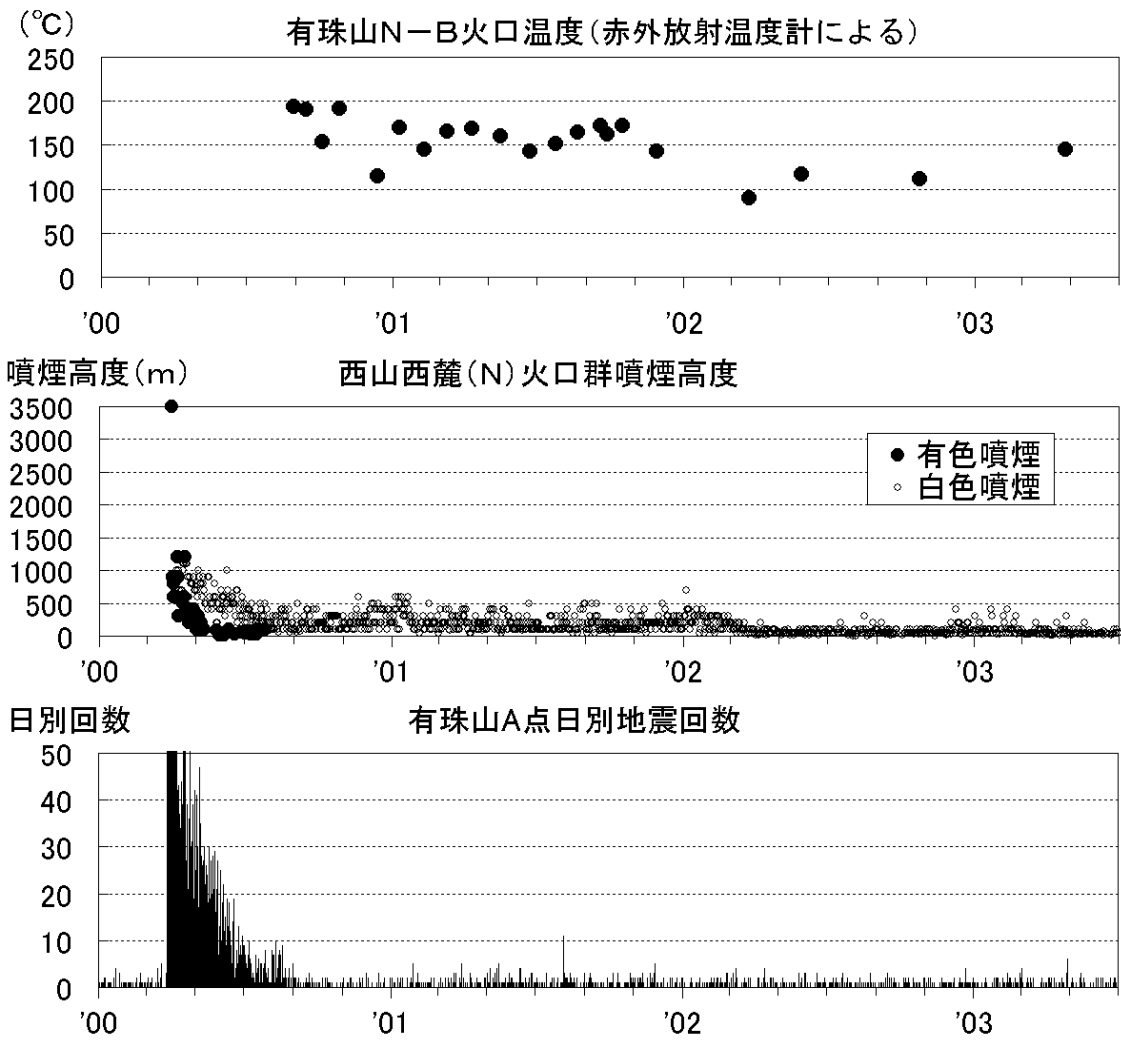
西山西麓を中心とする収縮傾向は 2002 年春頃まで鈍化しながら続いていましたが、その後の変化は、1980 年代から続いている山頂部の定常的な沈降に伴う動きを表していると考えられます。



有珠山基線長変化(2001年2月9日~2003年6月30日)



有珠山震源分布図(2003年6月1日~6月30日) 印は地震計



有珠山火山活動経過図(日別、2000年1月1日~2003年6月30日)